

国会前 たぎる思い



妊婦が初参加の学生が戦争体験者が

主権者・国民の意思に逆らう安倍政権は、違憲立法とともに奔り去ろう―政府・与党が戦争法案を衆院で強行可決した翌日にたいし16日、国会周辺に怒りの声を上げ続けた人たちの思いです。

国会正門前から国会前の交差点まで延びる石垣に座っていた小林杏(あんぬ)さん(34)は、妊娠7ヶ月の身をおして国会に初めて来

「憲法違反の戦争法は廃案」と強行採決に抗議する人たち16日、国会正門前

ました。戦争法案が成り立ったら「4歳の上の子や生まれる子どもが巻き込まれるママ」という思いがあります。「戦争する国」に変えてしまふ安倍政権は

守ってきた憲法を守っていかなくてはならない。日々声を上げ続けることの積み重ねで、それは実現できる。私もその頭数になればと思う」

十分なはず。これだけ多くの人が反対しているのに強行は許されな

い。戦争体験者の思いも強烈です。腕が真っ赤に日焼けしている望月文人さん(77)は、地元神奈川県平塚市で戦争法案反対のピラを2000枚配布するなどの行動をしています。戦争中、低空で頭

日弁連シンポでの発言

日本弁護士連合会が15日夜に開いたシンポジウム「安全保障法制の問題点を考える」での浅田次郎さんと岡田武夫さんの発言(要旨)を紹介します。

安倍首相 国民への侮辱だ

日本ペンクラブ会長 作家

浅田 次郎さん

日本の言論の自由が危うくなっていると思

日本カトリック司教協議会会長 東京教区大司教

岡田 武夫さん

強行採決が行われ、大衆残念に思い、大変不安に思っています。憲法

人間の尊厳 ともに守ろう

愛する、敵を敵でなく、同じ人間として大切に思うようにというのが聖書全体を貫